



第11期

2021年度

報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)



Providing trusted technology with sincere commitment

TOP MESSAGE

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、2021年度(2021年4月1日から2022年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

2022年6月

代表取締役社長 **北達 伊佐雄**



祖業である造船事業を2021年2月末に譲渡し、新サノヤスグループとして新たにスタートを切ってから早くも1年あまりが経過しました。

2021年度の経営成績は、売上高は19,148百万円(前期比25,480百万円(57.1%)の減収、造船事業を除いた前期比では434百万円の増収)となり、営業利益は222百万円(前期は5,267百万円の営業損失、造船事業を除いた前期は598百万円の営業損失)、経常利益は205百万円(前期は5,154百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する当期純利益は434百万円(前期は3,685百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。新型コロナウイルス禍との戦いに明け暮れた一年でしたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全ての利益項目で3期振りに黒字転換を果たすことができました。また、連結財政状態をみると、純資産は7,871百万円となり自己資本比率は30%の大台を超えました。

セグメント別にみると、レジャー事業は、緊急事態宣言が明けた2021年10月以降遊園地の利用客の回復が目覚ましく、遊園地運営の売上高が大幅に増加し、また国内遊園地からの部品・修理のニーズが復活しました。尤も遊園地の新規投資意欲は依然低調で、新規機械販売が振るわず売上高こそ当初予想を下回りましたが、営業利益は当初予想を上回り、黒字に転換しました。一方で、建設業向け事業における部品・部材調達の長納期化及び顧客の建設工事の遅れによる納期の延長等の発生や、産業向け事業でのコロナ禍により減退した顧客の設備投資意欲の回復が想定より鈍かったこと等により、連結売上高、営業利益、経常利益は当初予想を下回りました。部品・部材調達の長納期化や納期の延長等の影響額は連結売上高で8.4億円、限界利益ベースで4.5億円のマイナス影響を受けました。親会社株主に帰属する当期純利益については、過去の組織再編に伴って計上していた繰延税金負債を戻し入れたこと等により当初予想を上回りました。

また、「新サノヤスグループ 中期経営計画2021」における2021年度の計数計画は、連結売上高200億円、連結経常利

益5億円、経常利益率2.5%、ROE4.7%であったところ、上述の理由から売上高、連結経常利益及び連結経常利益率は計画に未達であったものの、ROEは5.9%と計画を上回ることができました。

中期経営計画2021では既存事業のオーガニック・グロースに加え、M&Aによる規模の拡大と体質強化を目指しており、2022年5月13日に開示したとおり、今年8月1日付で配電盤・分電盤・制御盤等のメーカーである松栄電機株式会社をグループ傘下に迎えることを予定しています。

また、ESGを重視した経営の実践を強固にするため、2021年度から「サステナビリティ推進委員会」を設立するとともに、CO₂の排出削減をはじめとする7つのマテリアリティを特定・公表しました。「経済は安定した環境・社会の上からこそ成り立つ」という考えのもと、今後はこれらのマテリアリティに対する具体的施策を推進し、持続可能な社会の実現に貢献し未来に選ばれる企業グループとなることを目指す所存です。

2022年度の連結業績予想は、引き続きコロナ禍による部品・部材の不足や原材料価格の上昇が継続するとみており、売上高210億円、営業利益5億円、経常利益5億円、親会社株主に帰属する当期純利益3億円を見込んでいます。中期経営計画2021で示した数字を下回ることはなりましたが、M&A等の成長戦略を加速させ、最終年度の2024年度の計画達成に向け邁進してまいります。

『「確かな技術にまごころこめて」～人と技術を磨き、新たな顧客価値を創出する～』の経営理念のもと、株主の皆様、お客様をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えられるグッドカンパニーを目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

**TOPICS
01**
みづほ工業株式会社 新テクニカルセンター竣工

2021年8月2日、みづほ工業株式会社の新テクニカルセンターが竣工しました。

同社は、乳化・攪拌装置事業(真空乳化装置・攪拌装置など)、水処理事業(純水装置・排水処理装置など)、エンジニアリング事業(大型タンク設備・鋼構造物など)の3つの事業を手掛けています。旧テクニカルセンターは、主力である乳化・攪拌装置事業において、お客様が来社されての試作テストや社内各種開発向けのテストの場として活用されてきましたが、老朽化が進んでいたため、新たに4階建ての新テクニカルセンターを建設しました。同社のテクニカルセンターは、乳化・攪拌装置を実際にテストに使用できる点が従来からお客様の評価を得ており、新テクニカルセンターでも様々なサイズの乳化・攪拌装置を備えています。

また、自動化、IoT対応の新たな機能を多数盛り込んだ新型乳化・攪拌装置の250L新型モデル機を2台新規製作・展示し、お客様のオーダーに応じたデモも可能です。

新テクニカルセンターをコンサルティング営業及び研究開発の最前線の拠点として、更なる発展を目指します。



新テクニカルセンター外観



試験用乳化・攪拌装置

**TOPICS
02**
**サノヤス・エンテック株式会社
社名変更と医療廃棄物処理装置の受注**

山田工業株式会社は、2022年4月1日にサノヤス・エンテック株式会社へと社名を変更しました。同社の創業100周年を前に、創業以来目指している環境インフラへの寄与の実現と、今後の更なる発展、加えてSDGs達成への貢献という目標を果たすという決意を込めて、「環境・技術」を意味する英語“Environment Technology”を由来としています。

管工事事業、環境装置事業、医療廃棄物処理装置事業の3つの事業を柱に、新たな社名のもと、環境・社会に一層貢献できる会社を目指してまいります。

また、同社は、医療廃棄物処理装置「サニクラッシュ・スーパー」を約3年ぶりに受注しました。本製品は、病菌等の医療機関から出る感染性廃棄物を滅菌・破砕処理する装置です。感染性廃棄物を安全に処理できるうえ、旧来必要であった感染性廃棄物の焼却処理を行わないため、ばい煙やダイオキシンの発生を抑制することが可能であり、環境やサステナビリティにも貢献できる製品となっています。この受注を皮切りに、更なる受注獲得を目指します。



サニクラッシュ・スーパー

**TOPICS
03**
**サノヤス・ライド株式会社が
東武動物公園「レジーナ」のリニューアルを受注**

サノヤス・ライド株式会社は、東武動物公園(埼玉県宮代町)の水上木製コースター「レジーナ」のリニューアルを受注しました。

同アトラクションは、世界初の水上木製コースターとしてオープンし、多くのお客様に親しまれる人気アトラクションでしたが、車両の老朽化のため2019年8月9日に営業を終了しました。しかし、復活を望む多数の声を受け、リニューアルされて同園に復活することとなったものです。

本リニューアルでは「復活」「発展」をキーワードに導き出した世界観「スチームパンク」をエリアテーマとし、サノヤス・ライド株式会社は、アメリカ Great Coasters International Inc.社と共に1編成24人乗り(2人×12輛)2編成の導入、一部交換を含む走路の補修、各種機器類の交換及びホームへのオートゲート設置等を実施し、安全性と乗り心地の向上を実現いたします。

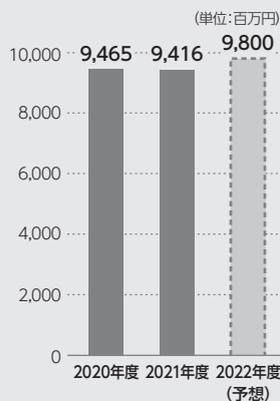
今後も、皆様にご満足いただける遊戯機械を提供してまいります。



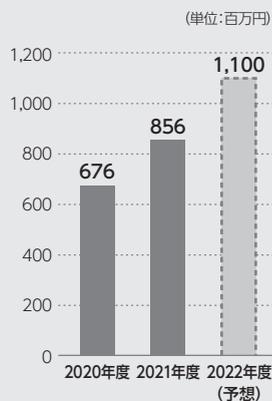
新レジーナ イメージ<画像提供:東武動物公園>

産業向け事業

■売上高



■営業利益

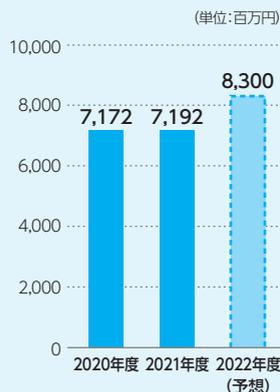


2021年度 **売上高** 94億16百万円

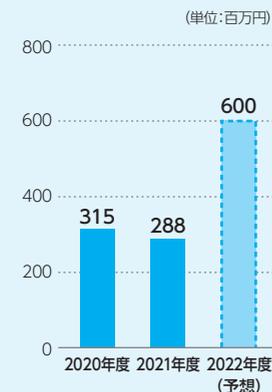
産業向けセグメントにおいては、半導体関連向け精密機械加工、農機及び特装自動車用部品が年間を通して好調を維持し、ショットプラスチックマシンの製造も下期からはフル操業となりましたが、化粧品製造装置の製造で下期は着実に受注を重ねたものの上期に受注不足であったことが響き、売上高は前期比微減収となり、営業利益は精密機械加工、化粧品製造装置及び食品産業用タンクの増益により前期比増益となりました。この結果、売上高は9,416百万円(前期比48百万円の減少)、営業利益は856百万円(前期比179百万円の増加)、受注高は9,708百万円(前期比2,421百万円の増加)、受注残高は4,212百万円(前期比1,146百万円の増加)となりました。

建設業向け事業

■売上高



■営業利益

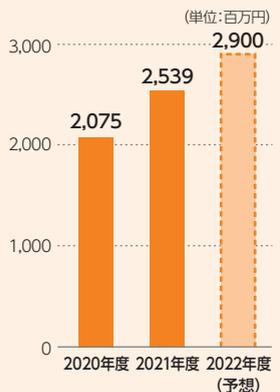


2021年度 **売上高** 71億92百万円

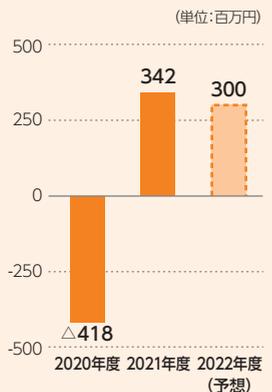
建設業向けセグメントにおいては、高層ビル用動力制御盤等の製造において電子部品・部材の不足が著しく、機械式駐車装置のリニューアル・修繕においても工事遅延の原因となっています。売上高は、動力制御盤等の売上が前期比大きく減少したもののこれらを建設工事用エレベーターと空調衛生給排水設備工事の増収によって補い微増収となりましたが、営業利益は、動力制御盤等の減益を他の事業の増益では補い切れず小幅な減益となりました。この結果、売上高は7,192百万円(前期比19百万円の増加)、営業利益は288百万円(前期比27百万円の減少)、受注高は6,477百万円(前期比427百万円の減少)、受注残高は4,333百万円(前期比203百万円の増加)となりました。

レジャー事業

■売上高



■営業利益



2021年度 **売上高** 25億39百万円

レジャーセグメントにおいては、2021年9月まではコロナ禍による影響を受け厳しい事業環境が継続しましたが、緊急事態宣言の解除された同年10月以降、遊園地施設運営の売上高は大幅に増加し、また、遊園地からの遊戯機械の部品交換や修理のニーズが復活しました。一方、遊戯機械販売においては、第2四半期に東武動物公園から水上木製コースター「レジーナ」のリニューアル工事を受注したものの、遊園地の新規投資意欲は総じて低調でした。この結果、売上高は2,539百万円(前期比464百万円の増加)、営業利益は342百万円(前期は418百万円の営業損失)、受注高は1,875百万円(前期比1,169百万円の増加)、受注残高は1,176百万円(前期比1,022百万円の増加)となりました。

※2021年2月末に造船事業を株式会社新来島どっくに譲渡したことから、従来「M&T事業」としていたセグメントを「産業向け」「建設業向け」「レジャー」の3セグメントに変更しています。なお、2020年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づいて作成しています。

2021年度の実績

(単位:億円)

| | 2021年度 計画 | 2021年度 実績 |
|---------|-----------|-----------|
| 連結売上高 | 200 | 191 |
| 産業向け | 170 | 94 |
| 建設業向け | | 71 |
| レジャー | 30 | 25 |
| 連結経常利益 | 5 | 2 |
| 連結経常利益率 | 2.5% | 1.1% |
| ROE | 4.7% | 5.9% |

2021年度の経営成績は、特に建設業向けセグメントにおいて、当社の部品・部材調達の遅れや顧客事情による納期の延長及び発注の後ずれが発生したこと等により、連結売上高、営業利益、経常利益は当初予想を下回りました。一方で、親会社株主に帰属する当期純利益について、過去の組織再編に伴って計上した繰延税金負債を戻し入れたこと等により、ROEは当初予想を上回りました。

重点取組の取組状況

■「技術オリエンテッド」の重点取組

| | |
|--------------------|---|
| 製品・工法の革新と技術体制再構築 | 新規製品開発の進展 ● 新型卓上試験機・研究用攪拌装置の開発(みづほ工業) ● 工事用エレベーターの制御方式最適化(サノヤス・エンジニアリング) ● 小型監視盤の開発/汎用ユニットを使ったシステム開発(ハピネスデンキ) |
| 科学的ものづくりへの転換 | CAE(Computer Aided Engineering)の導入による設計段階でのコンピュータ解析(模擬試験)への着手 |
| DX活用等による営業・サービスの革新 | CRM(Customer Relationship Management)の導入、タブレットによる工事報告書の作成などによる業務効率化 |

■「ハイサイクル経営」の重点取組

| | |
|-----------------------|--|
| グループ一体運営によるハイサイクル経営 | 開発、製造、営業・サービスの各分野ごとに、グループ会社の垣根を越えた会議体である「職能会議」を開設し、人材育成の課題解決(開発・製造)、営業の戦略化を画策 |
| 「多角化&中規模事業化」戦略の加速 | 生産規模拡大に向けた設備投資 ● 甲府工場的大幅改修・金属加工機械の更新(サノヤス精密工業) ● 新テクニカルセンターの完成と第二工場建設の計画(みづほ工業) |
| グループ経営資源のフル活用と人材育成の加速 | 基幹システムのグループ会社への導入、グループCMSの導入 |

戦略的M&A・アライアンスの状況

当社は、M&Aによる体質強化と規模の拡大を進めており、配電盤・分電盤・制御盤のメーカーである松栄電機株式会社及びその子会社である松栄電気システムコントロール株式会社を今年8月1日付で子会社化し、サノヤスグループに迎えることを決議及び公表しています。

松栄電機株式会社は、特に通信基地局等の通信インフラ向け

製品で多数の実績がある一方、当社グループでは、ハピネスデンキ株式会社が官庁舎、大学をはじめとした大型ビルや空港などの大規模施設向けの動力制御盤・分電盤・配電盤等の製造・販売を行っています。両社の営業面の相乗効果、技術・生産面の相互補完によって、当該事業分野の更なる成長と収益力の強化を目指します。

中期経営計画2021

■ 中期経営計画計数目標

① 2024年度に

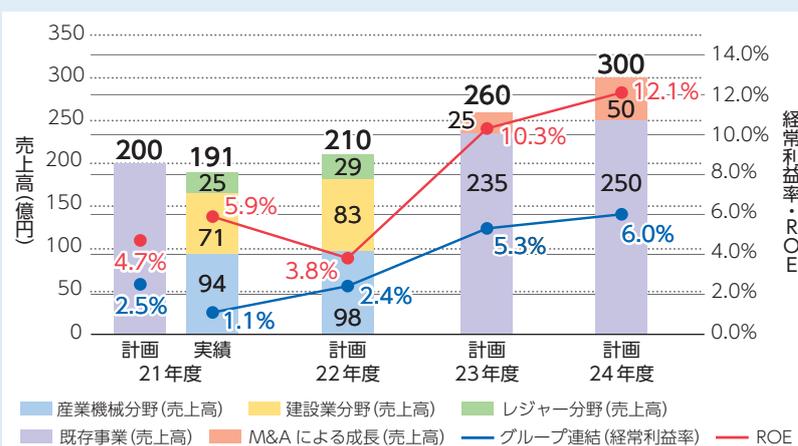
売上高300億円

経常利益率6%

ROE10%

② 2021年度から

配当性向30%以上(最低5円配当)



*ROE: Return On Equity(自己資本利益率)



ESG経営の実践に向けた 重要課題(マテリアリティ)特定

当社は、持続可能な社会の実現に向けて、限りある経営資源を有効に活用して事業活動の持続可能性を高め、企業価値向上を目指すという観点から、サノヤスグループとして優先して取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を下記のとおり特定いたしました。

下記のうち、CO₂の排出削減については、当社グループ全体

の事業拠点におけるCO₂排出量(Scope1,2)の約8割を占める購入電力の使用によるCO₂の排出量を、2030年に25%削減(2021年実績対比)、2050年に実質ゼロとすることを目標として、排出削減に取り組むことにいたしました。

また、その他の具体的な施策及び指標・目標値については、当社ウェブサイトへ順次掲載してまいります。

■サノヤスグループの7つの重要課題(マテリアリティ)

| 重要課題 (マテリアリティ) | 環境 | | | 社会 | | 企業統治 | |
|-------------------|---------------------------|------------------------------------|--------|--------------------------|------------------------------|-------------------------------------|------------------|
| | CO ₂ の 排出削減 | 環境保全に 貢献する 製品・サービスの 開発と提供 | 廃棄物の削減 | 安全・安心な 製品・サービスの 提供 | 価値を創造する 人財の採用、 育成、活躍促進 | DX等による ビジネスモデル、 業務プロセスの 革新 | 企業倫理の 徹底と法令遵守 |
| 主に関連する SDGs | 7.3 | 6.3 | 9.4 | 8.5 | 4.7 | 5.b | 4.7 |
| | 9.4 | 9.4 | 12.2 | 9.1 | 8.5 | 8.2 | 16.3 |
| | 13.3 | 12.5 | | 11.2 | 10.2 | 16.7 | |

SDGs研修 実施

サノヤスグループでは2021年9月から11月にかけて、中堅・若手社員を対象に、株式会社日本総合研究所の「SAKIプログラム」に基づいたSDGs研修を行いました。

研修は3つのフェーズに分けて行われ、まず、①勉強会として株式会社日本総合研究所から講師を招き、SDGsについての勉強会を実施しました。続いて、②研修として集合研修を行い、サノヤスグループとして達成可能なSDGsの項目や、社会貢献についてアイデアを出し合い意見を交わしました。そして、③報告会として、当社サステナビリティ推進委員会のメンバーを前に、各グループから個人ワーク・グループワークでの検討結果について発表を行いました。



SDGs研修の様子

連結貸借対照表 (要旨)

| 科目 | 金額 (単位: 百万円) | |
|--------------|--------------|---------|
| | 2020年度末 | 2021年度末 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 13,638 | 11,508 |
| 固定資産 | 12,762 | 13,919 |
| 有形固定資産 | 7,372 | 7,793 |
| 無形固定資産 | 938 | 1,081 |
| 投資その他の資産 | 4,451 | 5,044 |
| 資産合計 | 26,401 | 25,428 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 10,157 | 8,573 |
| 固定負債 | 9,145 | 8,983 |
| 負債合計 | 19,302 | 17,557 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 5,496 | 5,818 |
| その他の包括利益累計額 | 1,512 | 1,965 |
| 新株予約権 | 89 | 86 |
| 純資産合計 | 7,098 | 7,871 |
| 負債及び純資産合計 | 26,401 | 25,428 |

ポイント

① 売上高

2020年度の造船事業を除く売上は187億13百万円であり、前期比は434百万円の増収でした。

② 営業利益

2020年度の造船事業を除く営業損失は598百万円であり、前期比は821百万円の増益でした。

③ 親会社株主に帰属する当期純利益

過去の組織再編に伴って計上した繰延税金負債を戻し入れたこと等によるものです。

④ 純資産・自己資本比率

純資産が前期末比増加した一方、総資産が減少したことから、自己資本比率は4.1ポイント上がり30.6%となりました。

連結損益計算書 (要旨)

| 科目 | 金額 (単位: 百万円) | |
|--|--------------|--------|
| | 2020年度 | 2021年度 |
| 1 売上高 | 44,628 | 19,148 |
| 売上総利益 | 240 | 4,659 |
| 2 営業利益又は営業損失 (△) | △5,267 | 222 |
| 経常利益又は経常損失 (△) | △5,154 | 205 |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△) | △3,329 | 227 |
| 当期純利益又は当期純損失 (△) | △3,685 | 434 |
| 3 親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (△) | △3,685 | 434 |

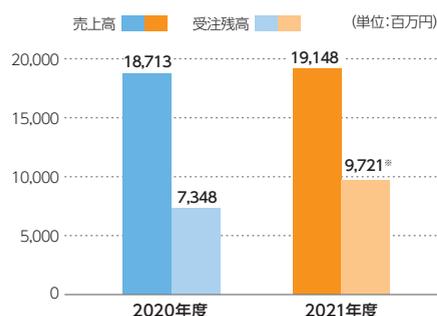
連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

| 科目 | 金額 (単位: 百万円) | |
|----------------------|--------------|--------|
| | 2020年度 | 2021年度 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △2,680 | 284 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △4,123 | △1,189 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △2,821 | △1,205 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 24 | 34 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △9,600 | △2,076 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 15,053 | 5,452 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 5,452 | 3,376 |

連結財務ハイライト

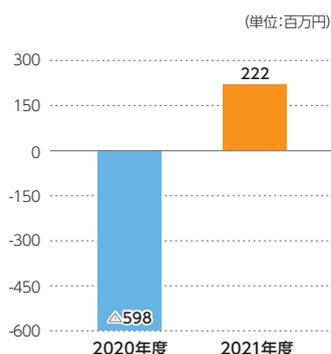
(注)以下のグラフの2020年度における売上高、受注残高及び営業利益の金額は、造船事業を除いた金額で表示しています。

売上高・受注残高

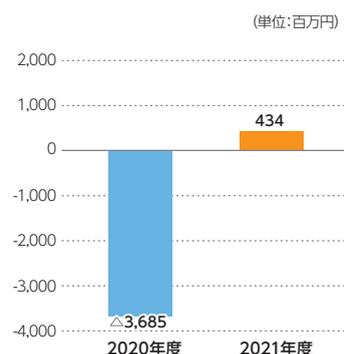


※2021年度より、建設業向けセグメントに建設工用エレベーターレンタルの受注残高を含めております。この変更に伴い、2020年度についても建設工用エレベーターレンタルの受注残高を含めた金額に変更しております。

営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



第11期定時株主総会決議ご通知

6月21日開催の当社第11期定時株主総会において、下記のとおり報告並びに決議されましたので、ご通知申し上げます。

報告事項

- 第11期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
- 第11期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案 剰余金の処分の件
本件は、原案どおり承認可決され、期末配当は1株につき金5円と決定いたしました。
- 第2号議案 定款一部変更の件
本件は、原案どおり承認可決されました。

第3号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く。)8名選任の件
本件は、原案どおり上田孝、北達伊佐雄、北川治、大門淳、花田恵二、森薫生、高橋健二、副島寿香の8氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

第4号議案 監査等委員である取締役3名選任の件
本件は、原案どおり松田武郎、中尾誠、山田茂善の3氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

第5号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件
本件は、原案どおり副島寿香氏が選任されました。

期末配当金のお支払について

第11期期末配当金は、同封の「配当金領収証」により、払渡期間内(2022年6月22日から2022年7月29日まで)に最寄りのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)でお受け取り下さい。

また、振込先をご指定の方には、「配当金計算書・配当金のお振込先について」を同封いたしましたのでご確認ください。

会社情報

経営理念

「確かな技術にまごころこめて」

会社概要 (2022年3月31日現在)

| | |
|-----|---|
| 商号 | サノヤスホールディングス株式会社 |
| 設立 | 2011年10月3日 |
| 資本金 | 2,581百万円 |
| 従業員 | 従業員数 37名 連結ベース 917名 |
| 本社 | 平均年齢 41.0歳 〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 |

株式情報 (2022年3月31日現在)

| | | |
|-------|----------|--------------|
| 株式の状況 | 発行可能株式総数 | 120,000,000株 |
| | 発行済株式の総数 | 33,137,420株 |
| | 株主数 | 14,661名 |

大株主

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|-------------------------|-----------|---------|
| サノヤス共栄会 | 2,602,300 | 7.86 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 2,365,400 | 7.15 |
| 株式会社三井住友銀行 | 1,425,000 | 4.31 |
| ストラクス株式会社 | 1,402,000 | 4.24 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 1,123,000 | 3.39 |
| 住友不動産株式会社 | 1,120,000 | 3.38 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 650,000 | 1.96 |
| 石田眞信 | 649,700 | 1.96 |
| 伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 | 564,000 | 1.70 |
| 株式会社タクマ | 534,000 | 1.61 |

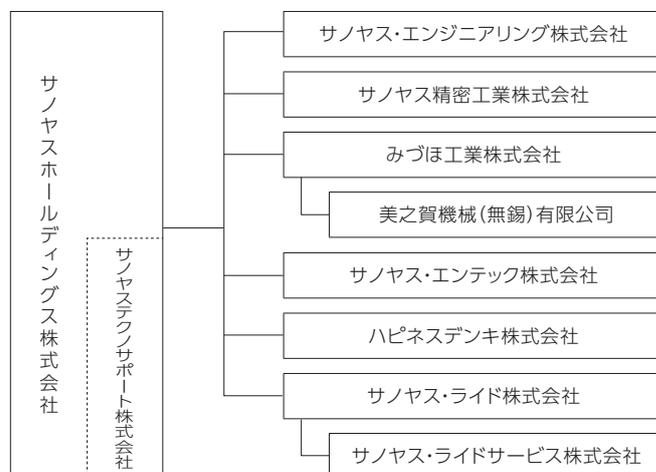
(注) 持株比率は、自己株式(47,214株)を控除して計算しております。

役員一覧 (2022年6月21日現在)

| | | | |
|------------------|--------|--------|-------|
| 代表取締役会長 | 上田 孝 | 上席執行役員 | 西山 昌宏 |
| 代表取締役社長 | 北達 伊佐雄 | 上席執行役員 | 佐藤 光 |
| 取締役 上席執行役員 | 北川 治 | 上席執行役員 | 田中 啓史 |
| 取締役 常務執行役員 | 大門 淳 | 上席執行役員 | 浅尾 洋光 |
| 取締役 執行役員 | 花田 恵二 | 上席執行役員 | 長松 芳男 |
| 取締役 | 森 薫生* | 常務執行役員 | 津村 好英 |
| 取締役 | 高橋 健二* | 執行役員 | 坂根 誠 |
| 取締役 | 副島 寿香* | 執行役員 | 田中 智 |
| 取締役 (常勤監査等委員) | 松田 武郎 | | |
| 取締役 (監査等委員) | 中尾 誠* | | |
| 取締役 (監査等委員) | 山田 茂善* | | |

*は社外役員を表します。

サノヤスグループ一覧 (2022年6月21日現在)



サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

